

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	407800101		
法人名	社会福祉法人 やまと医正会		
事業所名	グループホーム敬和苑		
所在地	福岡県柳川市大和町栄220-2 (電話) 0944-76-5555		
自己評価作成日	令和 3 年 10 月 1 日	評価結果確定日	令和 4 年 2 月 21 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

事業所の理念として「安全で安心できるケア、温かいまなざし・言葉のケア、敬う心で和やかな暮らしを提供する事、」と掲げ、毎日利用者様に、楽しく笑顔で安心でできるグループホームを目指して、スタッフ一丸となり、より良いケアにつながるよう努めています。また、各サービス事業所や、地域の方々との連携を図り、スムーズなサービス提供を心掛けています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 3 年 12 月 10 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

周囲は畑や田んぼ、民家に囲まれ、県道から入った静かな環境の中にある。敷地内には同法人の特別養護老人ホーム、ケアハウス、通所介護が併設されており、利用者の心身状況の変化に合わせて利用の相談ができることで、利用者・家族の安心に繋がっている。事業所は平屋で2ユニットからなり、敷地内の桜の木の下でのお花見や、季節に合わせた作品作りなど、利用者が楽しめる活動を行っている。現在、コロナ禍のため外出等がままならない中、感染対策を十分に行った上で、施設内で敬老会や運動会等を実施している。個人情報取り扱いに配慮しながら、利用者の行事参加時の写真をそれぞれまとめてファイリングしており、家族の来苑時には面会簿として職員が手渡し、見てもらうようにしている。

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝、夕の申し送り終了時に、グループホーム理念及び、基本理念を唱和し、スタッフ全員が、一丸となり、同じ気持ちで、介護を提供出来るように心掛けている。	事業所独自の理念があり、職員が同じ気持ちで介護が提供できるように、毎日の朝礼や夕方の申し送りで唱和を行っている。会議の時に理念についての話をすることもある。利用者へ声を掛ける時の姿勢、目線、声のトーンなど、日々のケアの中で理念の実現に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中、慰問は中止、地域運営会議も行われていないが家族や、地域の方等には、お手紙や電話等で連絡し交流を深めている。	2ヶ月に1回、事業所便りを区長や老人会へ郵送している。コロナ禍のため、地域活動は中止されているが、事業所周辺の清掃活動を行っている。保育所の慰問や中学校の職場体験、事業所内行事へ地域の方の招待など受け入れは難しい状況である。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の中学校の職場体験の受け入れはあったが、今年はコロナ禍であっていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の中地域運営推進会議はあっていない。今まで2ヶ月に一度の運営推進会議には利用者様、ご家族、区長、民生委員、老人会柳川市より出席して頂き、GHでの行事等の報告をしている。また、参加者からの貴重な意見や質問を頂き、サービスの向上、改善につながるように努めている。	運営推進会議は2ヶ月に1回、利用者家族や市町村、地域包括センター、区長、民生委員児童委員などへ利用者状況、評価報告など手紙や電話連絡を行い、資料を郵送して意見をもらうようにしている。最近では面会について家族より意見があり、対応をしているところである。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議に市の福祉課や地域包括支援センターの方に出席して頂き、質問等に対して、アドバイス、助言を頂き、より良いサービス提供に向けて、取り組んでいる。	日頃から市町村とは相談、連絡、報告を行っている。健康についての話を市町村の担当課からしてもらったり、助言を貰うなど日頃より協力関係が築けるように連携をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会があり、日常のケアの中でスタッフ全員が、身体拘束をしないケアを行っている。	玄関ドアにはベルを付けているが、施錠はしていない。居室内の窓、裏口も施錠はしていない。外出傾向のある利用者には動きを見ながら付き添いや声掛けを行い、事業所内や玄関外を一緒に歩くこともある。身体拘束廃止委員会があり、定期的に会議で研修会を行い、身体拘束をしないケアへの取り組みを職員へ周知している。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	どうい介護が虐待に当てはまるか、日々のケアの中で、常に心掛けて介護を行っている。また、スタッフ間でも、注意し合い、日々の介護行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ禍の中、地域運営推進会議は中止、寮母会議の中で成年後見制度について学んでいる。	運営推進会議の中で、権利擁護に関する制度について包括支援センターから説明をしてもらうこともある。玄関には誰もが閲覧できるように制度のファイルが設置され、家族から相談があった時は、制度の説明を行っている。制度についての研修は寮母会議で行っている。身寄りのない利用者に対して成年後見制度の利用を行ったことがある。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては、その内容を説明し、理解納得したうえで、署名して頂いている。利用者様に身体面での変化が合った場合、家族に連絡し、その後の意向、要望を確認し、対応行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のスタッフ間での寮母会議で、疑問、改善点を検討し、話合ったうえで、業務に反映させている。また、適宜状況報告、意見交換をおこなっている。	利用者にはそれぞれ担当職員がついており、毎日の生活の中で意見や希望がないかを聞くようにしている。食事内容に希望がある時は、メニューに組み込むなど行っている。家族会は年1回の忘年会と兼ねて行っていたが、現在は実施できていないため、運営推進会議での資料の郵送時や来園時に、担当職員が声を掛けて意見を伺うようにしている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	同敷地内の事業所で、定期的に業務会議や、各委員会を開き現在の状況や、業務報告、意見交換を行っている。	各委員会に職員は参加しており、この時に意見を述べることもできる。毎日の業務の中で問題点や改善点など意見がある時は、その場で管理者へ相談ができる環境がある。職員からの提案でセンサーマットの使用、座位姿勢保持の用の用具を作るなど、気づきやアイデアを業務に反映させている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年は、コロナ禍の中朝礼は中止。以前は毎月、グループ内の全職員が集合し全体朝礼があり、そこで理事長より訓示を受ける。また、勉強会も開催され、近隣三施設の職員が一同に研修を受けている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	年齢、性別に関係なく採用されている。20～60代までの職員が、意見を出し合いそれぞれの長所を尊重しながら、介護に当たっている。	年齢や性別などで採用対象から外すようなことはない。幅広い年代の職員と一緒に仕事をしている。資格取得に対する事業所としての助成、産休育休の取得、家庭の事情による時間有休の取得など、安心して働ける環境作りに努めている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	今年は、コロナ禍で勉強会の回数少なくが、敬和苑グループで、2ヶ月に1回勉強会が開催され、参加している。	一部職員が外部研修を受講し、伝達研修を行っている。また、寮母会議の研修で人権教育を行い、職員は研修を受ける機会があり、人権尊重のための取り組みを行っている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	適宜、適性に応じ、2ヶ月に1回勉強会が開催されている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域近隣のホームとの交流の機会は、まだないが、法人内のグループとの交流はある。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様入所された時に、ご本人、ご家族からの聞き取りを行い、信頼関係の構築に努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の相談を受けた段階で、ご家族の気持ちや要望を傾聴し、安心感を持って頂けるよう努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の家族や、入居前に利用しているサービス事業所から、情報収集し、安心して頂けるようにしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の会話、家族からの話を聞き好きな事、得意な事を聞き取り把握し、それを活かして、楽しく生活できるように支援している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に状況を報告し場合によっては、家族の協力を得るようにしている。日頃から家族の意見をうかがえるように、努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の方、知人が面会に来られた時は、ゆっくりと過ごして頂けるように配慮し、また、来て頂ける雰囲気作りに努めている。	コロナ前は知人の訪問がある時は利用者とゆっくり過ごせるような場を作ったり、以前利用していた理美容室へ連れて行くなどしていた。電話連絡や手紙がきた時は、職員と一緒に対応をし、馴染みの関係が継続できるように支援を行っている。毎年、友人知人、家族に向けての年賀状作りの手伝いを行っている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格を把握し、スタッフが中に入りながら、利用者が安心して過ごせる環境作りに努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等で、退所された場合、家族が来所され、今後の事を相談された場合には、状況に応じて、説明を行っている。また、関連の施設や、入院先にも相談を受けている事を伝える旨を説明している。		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中で、一人一人の意見や願望を聞き把握している。また、意見表示が困難な場合でも、表情や動きの観察に努めスタッフ間でも、情報提供に努めている。	職員１名で利用者を１～２名担当している。日々の会話や関わりの中から利用者の思いや意向を聞き取ったり、気付いたりした情報は経過記録に残していくことで、職員間での共有が出来ている。利用者から聞き取りしたことで、よく分からないことや気になる事柄については家族や事情を知る人に確認している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様入所時に、生活歴や、好きな事、得意な事等の聞き取りを行っている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、利用者様の生活リズムを把握し、好きな事を提供出来るように努めている。また、利用者様の変化があった場合、些細な事でも口頭や文書で情報交換を行っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プランは、ご本人・ご家族の意向を聞き、日常生活を把握しているスタッフの意見、情報から、課題・目標を設定している。定期的な見直しの際には、新たな問題がないか、確認している。	作成されたケアプランに基づき、個別援助記録に日々の実施状況が記録されたものをモニタリングとしてまとめ、６ヶ月後の担当者会議に提出し、新たなニーズを踏まえ検討し、次期ケアプランを作成している。心身状態の変化やかかり付け医からの情報がある際にはその都度対応し、ケアプランに反映させている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の言動、動き表情等を具体的に記入するようにしている。記録を共有し、今後のケアの見直しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内に特養、デイ、ケアハウス、居宅等の事業所を運営しており、情報を共有し合い、必要に応じて、相談にのってもらっている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年は、コロナ禍の為ボランティアの方が来られることはなかったが、慰問や中学生の職場体験の受け入も、進んで行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム内の協力医療機関（内科・歯科）をかかりつけとする場合は説明をして同意を得ている。入居前からの認知症専門医等を受診意向があれば、そちらを優先し、家族や医療期間に情報提供をおこなっている。	現在、ほぼ全員が苑の協力医療機関をかかりつけ医としている。希望による専門他科受診の際には家族に対応をお願いしているので、必要な情報が受診先に伝わり、受診先からも必要な情報がホームに届くよう、その都度文書を家族に渡している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内に看護師の配置はないが、同敷地内の看護職員に情報を報告し、アドバイスを受けている。みやま訪問看護ステーションと連携し、毎週月曜日に来苑して頂き診て頂いている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院になった場合、入院先にホーム内での情報を伝えている。また、入院中の状況を家族、病院と連携を取りながら、スムーズな退院に繋がれるように、支援している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合には状況に応じて、家族へ説明を行い、家族の意向を確認しながらかかりつけ医と連携をとっている。また、みやま市の訪問看護ステーションと契約を交わし、重度化した場合の対応を行っている。	利用者の日々の健康管理と緊急時対応が適切に行われること、重度化しても協力医療機関、訪問看護の支援を適切かつ安定して受けられるよう、医療連携体制加算を設定しており、入所者、家族に契約時、また折に触れて説明している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変時には家族、かかりつけ医に連絡し、家族の意向を確認し対応している。応急手当や、緊急時については、マニュアルを作成している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に２回、同敷地内の特養と合同で、避難訓練を行い、利用者の身体機能など状況に応じ避難対応を検討している。また、同敷地内の特養と協力し、事業所内に必要物品を準備する。	今年度はコロナ禍のため消防署の応援はなく、自主訓練として避難訓練や消火訓練を行った。風水害の際には併接する特別養護老人ホームの２階が避難先となるため、訓練は合同で行っている。備蓄品は収納力のある特別養護老人ホームに事業所分が保管されている。	災害時、自施設からの避難が困難な際に備えるための備蓄品のため、最低限必要な備蓄品は自施設内での保管をしてほしい。
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人一人を尊重し、適宜声掛けを行いプライバシーにも配慮している。出ていない時は、スタッフ間で注意し合っている。	職員はトイレ誘導等の際、利用者の誇りやプライバシーに配慮し、さりげない声かけを行っている。受診で外出する際には、他の利用者に受診先が知られないように配慮している。法人内の接遇委員会にホームの代表が出席し、委員会の議事内容などを職員に伝えている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人が意向や願望を表せず、思いを伝える事が出来ない場合でも、ちょっとした行動や本人の言動から自己決定に繋げられるようにしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の状況を把握し、ペースをつかむこと、安心して生活できる環境作りを支援している。気がのらない時は、無理に言わずいつも、出来るようにしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張散髪が定期的に来所している。馴染みの美容室がある方は、外出を重ね家族が来所される。入浴時に洋服選びを一緒にする事もある。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入浴時や日常生活の中で、好き嫌いや味付けの好みを把握し、食事提供を行っている。また、一緒に食事を楽しみ、片付けを協力して頂いている。	食事は３食ともホーム職員が作っている。日々の会話から利用者の希望を聞き取ったり、あれが美味しそう、あれを食べてみたいと、TVを観ながら発する利用者の声を聴いて作ったりしている。台所とホール間に仕切りがなく調理の様子や匂いを利用者は感じて過ごしている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通して偏らないようにメニューを作成している。食事形態も把握したうえで柔軟に提供している。水分は3回の食事時を含め6～7回提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は、口腔ケアを行い、義歯の消毒も定期的に行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握しトイレの排泄に繋がるようにケアしている。利用者様の動きや間隔を見てスタッフが、声掛けし訴えがある時は、速やかに対応している。	ポータブルトイレを使用せず、24時間トイレで排泄する生活へ向けて支援している。排泄後の始末にはホットタオルを使用しているので排泄後の不快感も軽減されている。トイレには職員が付き添い、排泄用品の選択も利用者に応じ適切になされている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ラジオ体操と全身体操を行っている。便秘の方には、食物繊維や、乳製品を提供する時もある。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	利用者様の身体状況、体調に合わせて入浴して頂いている。拒否がある場合には時間をずらして声かけを行ったり、曜日を変更して対応している。また、夏場は日数を増やし、清潔保持に努めている。	入浴は、冬場は週2回、夏場は3回を基本としている。月曜日から土曜日まで沸かししており、希望があれば対応している。日曜日はシャワー等で対応している。複数での入浴を好む利用者もあり、その利用者は複数で入浴している。季節感のある入浴を心がけている。家族の協力を得て、本人が使い慣れた入浴用品・入浴剤を使用している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活パターンを把握し、傍についたりして、入浴の援助を行っている。睡眠時間が十分でない方には、昼夜逆転にならない程度で、ベッド臥床したりしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書や、薬手帳は、スタッフがいつでも見る事が出来るようにしている、薬の変更や追加時は、申し送りをし、服用後の変化があれば、担当医に報告している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	皆で、一緒に歌を唄ったり、テレビで相撲観戦をしたり、一緒に楽しめる時間作りを提供している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年はコロナ禍の中出かける事はなかったが、普段はドライブや散歩を実地し、戸外へ出掛ける事で気分転換を図って頂いている。家族との外出時は、スムーズに出掛けられるように支援している。	コロナ禍のため、受診以外の外出はしていない。天気が良い日はウッドデッキや玄関前などの散歩に誘い、閉じこもりにならないように支援している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の希望時や必要な物がある場合には適宜対応している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や、知人からの電話、郵便物は、その都度取り次いでいる。困難な利用者様の場合は、スタッフが預かりご家族に連絡したうえで、お渡ししている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングからウッドデッキ、中庭へ出る事が出来るので、天気の良い日はウッドデッキに出て花や、木々を見て季節感を感じてもらっている。また、窓際で日なたぼっこをされる時もある。温湿度計は設置しており、心地良く過ごせるように支援している。	建物内は木の床でバリアフリー化されている。ユニット内の家具の配置は、利用者の身体状況や動線に応じて配置替えされている。ホール天井の照明は間接照明のため、ホール内は落ち着いた雰囲気となっている。ホールと台所の間は仕切られていないので、台所から調理中の食事の匂いがホールに漂っている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや、テーブルの席に座り、一人一人が思うように過ごされている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や、馴染みのある品を置くことで居心地良く過ごせるよう支援している。季節の変わり目には、寝具、衣類の入れ替えを行い、安心、快適に過ごせるよう支援している。	ベッドとタンスが予め用意されている。ベッドは利用者の身体状況や動線により、個々に向きや高さが調整されている。ドアは車椅子利用者も出入りがし易いように引き戸になっている。部屋の窓は掃き出しになっており、掃き出しのガラス戸には障子戸も取り付けられていて、和風の落ち着いた雰囲気になっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング、トイレには、手すりが設置されており、利用者様が、移動時利用されている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
			○	④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている
			○	②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝、夕の申し送り終了時に、グループホーム理念及び、基本理念を唱和し、スタッフ全員が、一丸となり、同じ気持ちで、介護を提供出来るように心掛けている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中、慰問は中止、地域運営会議も行われていない。家族や、地域の方等には、お手紙や電話等で連絡し交流を深めている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の中学校の職場体験の受け入れはあったが、今年はコロナ禍であってはいない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の中地域運営推進会議はあっていないが、2ヶ月に一度の運営推進会議には利用者様、ご家族、区長、民生委員、老人会柳川市より出席して頂き、GHでの行事等の報告をしている。また、参加者からの貴重な意見や質問を頂き、サービスの向上、改善につながるように努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議に市の福祉課や地域包括支援センターの方に出席して頂き、質問等に対して、アドバイス、助言を頂き、より良いサービス提供に向けて、取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会があり、日常のケアの中でスタッフ全員が、身体拘束をしないケアを行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	どうい介護が虐待に当てはまるか、日々のケアの中で、常に心掛けて介護を行っている。また、スタッフ間でも、注意し合い、日々の介護行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ禍の中、地域運営推進会議は中止、寮母会議の中で成年後見制度について学んでいる。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては、その内容を説明し、理解納得したうえで、署名して頂いている。利用者様に身体面での変化が合った場合、家族に連絡し、その後の意向、要望を確認し、対応行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のスタッフ間での寮母会議で、疑問、改善点を検討し、話合ったうえで、業務に反映させている。また、適宜状況報告、意見交換をおこなっている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	同敷地内の事業所で、定期的に業務会議や、各委員会を開き現在の状況や、業務報告、意見交換を行っている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年は、コロナ禍の中朝礼は中止。以前は毎月、グループ内の全職員が集合し全体朝礼があり、そこで理事長より訓示を受ける。また、勉強会も開催され、近隣三施設の職員が一同に研修を受けている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	年齢、性別に関係なく採用されている。20～60代までの職員が、意見を出し合いそれぞれの長所を尊重しながら、介護に当たっている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	今年は、コロナ禍で勉強会の回数少なくが、敬和苑グループで、2ヶ月に1回勉強会が開催され、参加している。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	適宜、適性に応じ、2ヶ月に1回勉強会が開催されている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域近隣のホームとの交流の機会は、まだないが、法人内のグループとの交流はある。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様入所された時に、ご本人、ご家族からの聞き取りを行い、信頼関係の構築に努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の相談を受けた段階で、ご家族の気持ちや要望を傾聴し、安心感を持って頂けるよう努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の家族や、入居前に利用しているサービス事業所から、情報収集し、安心して頂けるようにしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の会話、家族からの話を聞き好きな事、得意な事を聞き取り把握し、それを活かして、楽しく生活できるように支援している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に状況を報告し場合によっては、家族の協力を得るようにしている。日頃から家族の意見をうかがえるように、努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の方、知人が面会に来られた時は、ゆっくりと過ごして頂けるよう、配慮し、また、来て頂ける雰囲気作りに努めている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格を把握し、スタッフが中に入りながら、利用者が安心して過ごせる環境作りに努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等で、退所された場合、家族が来所され、今後の事を相談された場合には、状況に応じて、説明を行っている。また、関連の施設や、入院先にも相談を受けている事を伝える旨を説明している。		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中で、一人一人の意見や願望を聞き把握している。また、意見表示が困難な場合でも、表情や動きの観察に努めスタッフ間でも、情報提供に努めている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様入所時に、生活歴や、好きな事、得意な事等の聞き取りを行っている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、利用者様の生活リズムを把握し、好きな事を提供出来るように努めている。また、利用者様の変化があった場合、些細な事でも口頭や文書で情報交換を行っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プランは、ご本人・ご家族の意向を聞き、日常生活を把握しているスタッフの意見、情報から、課題・目標を設定している。定期的な見直しの際には、新たな問題がないか、確認している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の言動、動き表情等を具体的に記入するようにしている。記録を共有し、今後のケアの見直しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人的に特養、デイ、ケアハウス、居宅等の事業所を運営しており、情報を共有し合い、必要に応じて、相談にのってもらっている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年は、コロナ禍の為ボランティアの方が来られることはなかったが、慰問や中学生の職場体験の受け入も、進んで行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム内の協力医療機関（内科・歯科）をかかりつけとする場合は説明をして同意を得ている。入居前からの認知症専門医等を受診意向があれば、そちらを優先し、家族や医療期間に情報提供をおこなっている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内に看護師の配置はないが、同敷地内の看護職員に情報を報告し、アドバイスを受けている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院になった場合、入院先にホーム内での情報を伝えている。また、入院中の状況を家族、病院と連携を取りながら、スムーズな退院に繋がれるように、支援している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合には状況に応じて、家族へ説明行い、家族の意向を確認しながら、かかりつけ医と連携をとっている。また、みやま市の訪問看護ステーションと契約を交わし、重度化した場合の対応を行っている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変時には家族、かかりつけ医に連絡し、家族の意向を確認し対応している。応急手当や、緊急時については、マニュアルを作成している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、同敷地内の特養と合同で、避難訓練を行い、利用者の身体機能など状況に応じ避難対応を検討している。また、同敷地内の特養と協力し、事業所内に必要物品を準備する。		
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人一人を尊重し、適宜声掛けを行いプライバシーにも配慮している。出来ない時は、スタッフ間で注意し合っている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人が意向や願望を表せず、思いを伝える事が出来ない場合でも、ちょっとした行動や本人の言動から自己決定に繋げられるようにしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の状況を把握し、ペースをつかむこと、安心して生活できる環境作りを支援している。気がのらない時は、無理に言わずいつも、出来るようにしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張散髪が定期的に来所している。馴染みの美容室がある方は、外出を重ね家族が来所される。入浴時に洋服選びを一緒にする事もある。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入浴時や日常生活の中で、好き嫌いや味付けの好み把握し、食事提供を行っている。また、一緒に食事を楽しみ、かたづけを協力して頂いている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通して偏らないようにメニューを作成している。食事形態も把握したうえで柔軟に提供している。水分は3回の食事時を含め6～7回提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は、口腔ケアを行い、義歯の消毒も定期的に行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握しトイレの排泄に繋がるようにケアしている。利用者様の動きや間隔を見てスタッフが、声掛けし訴えがある時は、速やかに対応している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ラジオ体操と全身体操を行っている。便秘の方には、食物繊維や、乳製品を提供する時もある。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	利用者様の身体状況、体調に合わせて入浴して頂いている。拒否がある場合には時間をずらして声かけを行ったり、曜日を変更して対応している。また、夏場は日数を増やし、清潔保持に努めている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活パターンを把握し、傍についたりして、入浴の援助を行っている。睡眠時間が十分でない方には、昼夜逆転にならない程度で、ベッド臥床したりしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書や、薬手帳は、スタッフがいつでも見る事が出来るようにしている、薬の変更や追加時は、申し送りをし、服用後の変化があれば、担当医に報告している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	皆で、一緒に歌を唄ったり、テレビで相撲観戦をしたり、一緒に楽しめる時間作りを提供している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年はコロナ禍の中出かける事はなかったが、普段はドライブや散歩を実地し、戸外へ出掛ける事で気分転換を図って頂いている。家族との外出時は、スムーズに出掛けられるように支援している。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の希望時や必要な物がある場合には適宜対応している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や、知人からの電話、郵便物は、その都度取り次いでいる。困難な利用者様の場合は、スタッフが預かりご家族に連絡したうえで、お渡ししている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングからウッドデッキ、中庭へ出る事が出来るので、天気の良い日はウッドデッキに出て花や、木々を見て季節感を感じてもらっている。また、窓際で日なたぼっこをされる時もある。温湿度計は設置しており、心地良く過ごせるように支援している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや、テーブルの席に座り、一人一人が思うように過ごされている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や、馴染みのある品を置くことで居心地良く過ごせるよう支援している。季節の変わり目には、寝具、衣類の入れ替えを行い、安心、快適に過ごせるよう支援している。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング、トイレには、手すりが設置されており、利用者様が、移動時利用されている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
			○	④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている
			○	②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない